

日本学術会議 薬学委員会
第 24 期・第 1 回 化学・物理系薬学分科会
議事要旨

日時 平成 30 年 1 月 17 日(水) 13:45～15:45

場所 日本学術会議 6-C 会議室

出席者 井上委員、加藤委員、佐治委員、嶋田委員、永次委員、長野委員、樋口委員、真鍋委員、山縣委員

陪席 日本学術会議事務局

配布資料 第 23 期・第 5 回薬学委員会 化学・物理系薬学分科会 議事録
第 24 期 薬学委員会 化学・物理系薬学分科会 委員名簿

議題

議題に入る前に、委員の先生より自己紹介が行われた。

(1) 委員長、副委員長、幹事に関しては、協議の結果以下のように選任した。

委員長：嶋田一夫

副委員長：永次 史

幹事：佐治英郎、樋口恒彦

(2) 薬学委員会 化学・物理系薬学分科会の第 24 期の活動について

- ・ 佐治(前)委員長より第 23 期での本分科会の活動結果、継続検討事項等の説明の後、第 24 期の活動の一つとしてシンポジウム開催の提案があった。
- ・ シンポジウムのテーマに関して、長野委員より平成 30 年 1 月 15 日開催の第 24 期第 1 回の生物系薬学分科会において、生物系薬学分科会の今期開催のシンポジウムのテーマとして医療情報データベース、クライオ電子顕微鏡に関する課題が取り上げられていたという情報提供があり、その情報を基に本分科会でのシンポジウムのテーマについて議論した。その結果、クライオ電子顕微鏡がホットな研究手法であることと、本分科会の委員として構造生物学を専門とする先生方が多くおられるためハード面での議論ができることから、生物系分科会と共催して「クライオ電子顕微鏡を中心としたタンパク質の立体構造解析と創薬・イメージング」といった方向性のシンポジウムを行うことを検討することとした。
- ・ 薬学の化学系・物理系分野という基礎系分野の立場から人材育成をどう行っていくかについて、薬学の 6 年制・4 年制のシステム等の最近の動向やキャリアパス、国の方針等、およびその課題が議論された。その結果、本課題は本分科会にとっても重要な課題であり、そのため基礎系分野という立場から特に 4 年制教育を中心としたキャリアパスを含めた人材

育成のあり方に関する報告書(あるいは提案)の作成、場合によってはシンポジウム(薬学教育分科会、生物系薬学分科会との共催)の開催が提案された。

- ・ マスタープランについては、薬学分野ではそこまで大型の装置を必要としないなど、必要とする多くの学問分野と異なる点もあるが、マスタープランについても議論していくこと自体は必要であるということが議論された。

(3) その他

- ・ 科研費審査が改革された結果、審査委員が広域の分野の審査や審査会での討議を行う必要があるが、そのように守備範囲の広く討議に向けた委員候補者の数が少ない状況であることが樋口委員より示され、議論された。これに関して、審査を専門とする URA のような人材を育成し登用することが解決につながる(キャリアパスの創出にもなる)のではないかという意見があった。
- ・ 委員会の開催に関して、テレビ会議などの遠隔会議が可能かどうかについて議論され、以前、Skype を使ったテレビ会議時、受信状態が大変悪かったという発言もあり、それに関する情報を事務局でも得ていただくこととした。